

新たな 食料・農業・農村 基本計画のポイント



農林水産省

食料・農業・農村をめぐる現状

食料の安定供給に対する不安

食料自給率は低迷し、農産物価格は、高い水準で推移すると予測されています。

食料自給率の低迷

(供給熱量ベースの食料自給率)

73%(S40)

↓

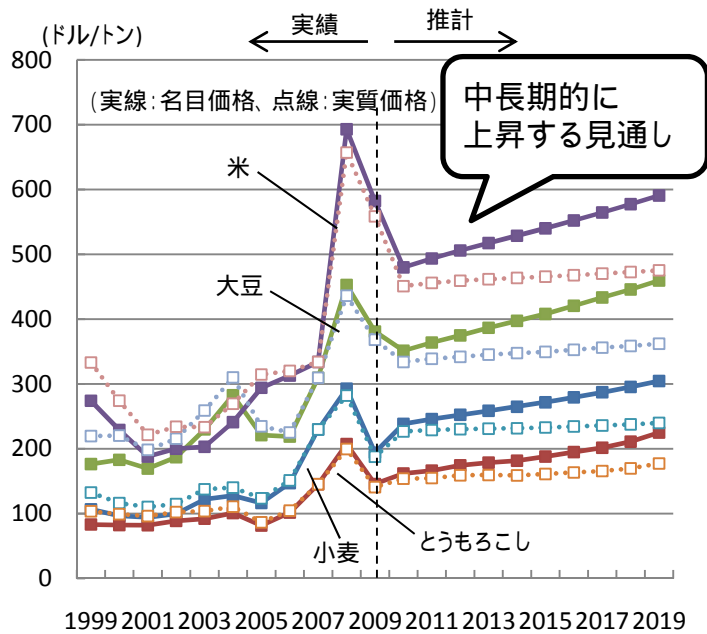
41%(H20)

「食品110番」の受付状況

15,162件(H16)

↓

26,222件(H20)



資料: 農林水産政策研究所「2019年における世界の食料需給見通し - 世界食料需給モデルによる予測結果 -」

農業・農村の疲弊

農業所得は大幅に減少し、主業農家の減少など後継者不足が深刻化しています。

農業所得の減少

6.1兆円(H2)

↓

3.3兆円(H19)

主業農家の減少

82.0万戸(H2)

↓

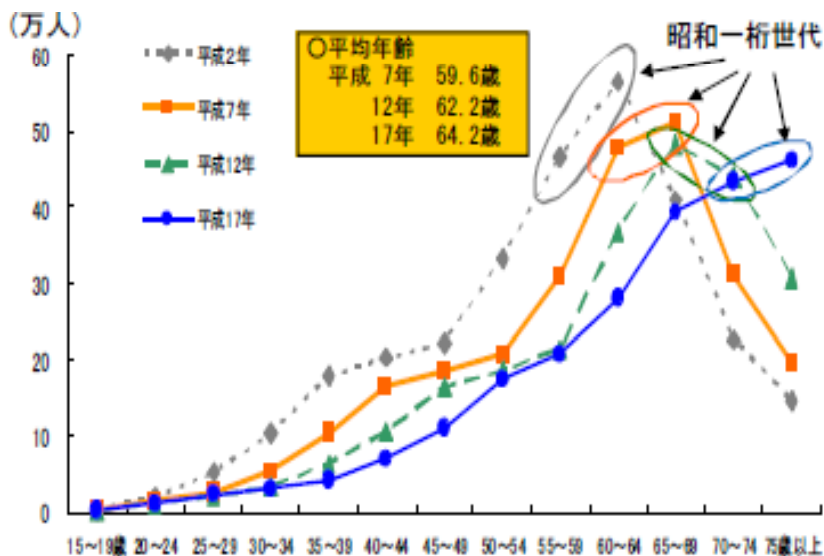
34.5万戸(H21)

耕作放棄地の増大

21.7万ha(H2)

↓

38.6万ha(H17)



国産農産物や農業・農村への関心の高まり

食料自給率向上に向けた国民運動「フード・アクション・ニッポン」の趣旨に賛同する企業・団体は着実に増えています。また、農業・農村を支える様々な取組が行われています。



食料自給率向上に向けた国民運動「フード・アクション・ニッポン」の趣旨に賛同する企業等(推進パートナー)数の推移



フード・アクション・ニッポンの活動の一環として、米粉倶楽部員283社(平成22年3月末現在)の協力の下で、米粉の認知拡大と消費拡大に向けた活動を実施。

(農業を応援する様々な取組)

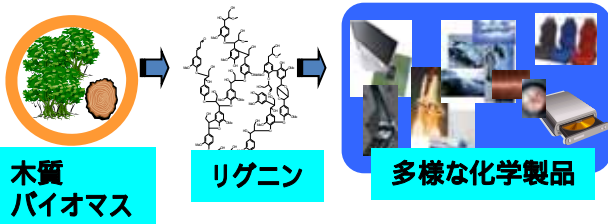


農林水産業・農山漁村の潜在力に対する期待の高まり

農業や食品産業が培ってきた付加価値を高める生産技術、食料・農業や環境に関する先進技術は、農山漁村の多様な資源を活用した新たな成長産業を生み出す源泉となり得る力を有しています。

また、農林水産業は、地球温暖化対策や生物多様性保全を含む地球環境問題へも貢献しています。

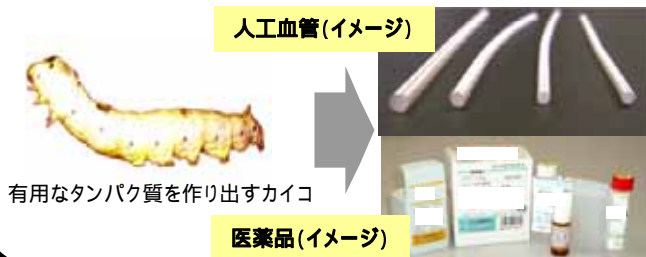
木質原料を活用した新素材の開発



農村における再生可能エネルギーの生産・利用



カイコによる医療用新素材・医薬品生産



農産物の機能性成分を活かした食品の開発

